

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市市民の森基本計画検討委員会				
事務局 (担当課)		環境経済局経済部津久井地域経済課 電話 042-780-1401 (直通)				
開催日時		平成27年7月30日(木) 13時30分～15時30分				
開催場所		緑区合同庁舎2階 会議室2-1				
出席者	委員	8人(別紙のとおり)				
	オブザーバー	3人(別紙のとおり)				
	事務局	4人(別紙のとおり)				
	支援業務受託者	4人(別紙のとおり)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由		公開				
会議次第		<p>1 開 会</p> <p>2 議 事</p> <p>(1) 相模原市市民の森の検討について</p> <p>ア 遊歩道 既存の遊歩道(東海自然歩道)、新設遊歩道、トイレ</p> <p>イ 森林体験ゾーン(2箇所) エリアの設定、施設(作業小屋、トイレ)、機能</p> <p>ウ 管理棟(1箇所) エリアの設定、施設、機能</p> <p>(2) その他</p> <p>3 閉 会</p>				

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(発言者： 委員長、 委員、 オブザーバー、 事務局、 支援業務受託者)

### 1 開 会

津久井地域経済課長より開会宣言を行った後、オブザーバーの変更の報告と紹介、会議の成立の報告を行った。また、会議の公開について諮り、了承を得た。

以後、委員長により進行が行われ、傍聴希望者の確認を経て、1名の傍聴者の入室が許可された。

### 2 議 事

#### (1) 相模原市市民の森の検討について

事務局より、第一段階の整備案について、資料に基づき概要説明を行った後、質疑応答が行われた。

##### 説明概要

相模原市市民の森は基本構想において段階的整備を基本としており、第一段階としては森林管理体験ゾーンと散策ウォーキングゾーンとなっているため、これを踏まえた整備内容としている。

- ・管理棟(市民の森の受け入れの拠点)
- ・森林管理体験ゾーン(森林管理体験(間伐・枝打ち等)を実施する拠点)
- ・散策ウォーキングゾーン

既存の東海自然歩道の周遊コース(登山者向け)

里山コース(子供から中高年まで幅広い層向け)

**新設**：石老山頂上付近から関川林道に繋がるコース

**新設**：融合平から関山林道に繋がるコース

- ・その他 山頂トイレの整備  
市民の森ガイドマップの作成  
市民の森の体験プログラムの考案

市民の森は、森林体験ゾーンに市民を呼んで体験してもらうことがメインなのか。また、第1回検討委員会の後、石老山に登ったが、石老山展望台や融合平見晴台からの景色は相模湖くらいしか見えなかった。相模湖だけでなく、もう少し色々なものが見えたらいいと思う。

展望台等からの景色は季節によって左右される。冬であればパノラマのような景観を楽しむことができるが、夏は枝が生い茂り、視界が悪くなる。景観伐採等を行い、眺望を確保していく必要があると考えている。

市民の森のメインは何かということについては、登山も一つの要素と考えている。市民の森は、通常の娯楽施設としての公園ではなく、林業をも視野に入れつつ、森林の保全・再生のために、森林を「知って、使って、身近になる」ことを目指して、体験プログラムや登山など、色々な活動プログラムを用意し、多くの方に活動を通じて山のことを知っていただけるようにしていきたいと考えている。

第一段階としての森林の管理体験と山登りは、一見隔たりを感じるが、どちらも市民の森の「森林を身近に感じる」、「市民活動ができる」、「林業の担い手育成」、「健康増進」という4つの機能の一部を担うもので、目的としては共通のものである。環境教育ゾーンとふれあいゾーンは、次の段階での取組みとしている。

第一段階として説明のあったハイキングと森林体験以外のプログラムについても、今後育てていこうということと理解している。

私も第1回の委員会後に石老山に登った。キャンプ場奥からのルートは、一部道がわかりにくく、危険に感じる箇所もあったというのが率直な感想である。

森林体験には、水が欠かせないと思っているが、計画している作業小屋周辺の水回りの整備についてはどのように考えているのか。当然、下の方のキャンプ場には水道があると思うが。

休養村キャンプ場では、沢水を水道利用しており、その奥については、水道は未整備である。活動プログラムにもよると思うが、水道整備となると相当大掛かりな話になる。基本的に作業小屋で長時間過ごすイメージはなく、皆さんが水筒などを持参する形から始めてもよいと考えている。水道整備が不可欠のものであるかどうか、近隣施設との関係も含めて、引き続き検討が必要と考えている。

それは山頂のトイレも同様か。

トイレについては参考資料のとおり、水の要否などの条件を考えた中で、今後、どのような方式がいいのか考えていきたい。

ハード面のイメージづくりは進んでいるが、活動のソフトを担当してもらう方も並行してコミュニケーションを取っていくことが望ましい。それにより、実際の活動をイメージする中で、水の話などの課題についても把握できるのではないかと。

たまたま森林インストラクターから、水は是非必要だという話を聞いた。

公営水道を下から引くとなると、相当大きな話になる。石老山周辺では、簡易水道等を使用しているところもある。顕鏡寺も沢水を利用されている。水をどのように確保し利用できるかということについては、今後、ご意見等を頂きながら検討していきたい。

関川林道に沿って沢がある。活動拠点の位置についても、水利用を含めてどこが一番適切なのかを決めた方がいい。実際にプログラムを展開すると、エリア的になると思うので、ソフト面を担う人たちとも話しをし、現実的なイメージを持ちながら進めていくことが望ましい。

当初からプログラム展開を想定しておくことが重要で、活動団体を募りながら整備のあり方を具体化していくため時間はかかるが、そうした進めの方が結果的には有効であると考えている。

関川林道と関山林道はつなげる計画があったのではないかと。また、新しいルートをつくるには、土地の問題もある。

今回設定している新規ルートについては、踏査できていないものも一部あるが、いくつかは実際に歩いている。キャンプ場奥の関川林道から石老山山頂付近に向かう市有林内の尾根筋は、昔から人が通っていた形跡があり歩きやすいが、関川林道から尾根までが急斜面のため、工夫が必要と考えている。

また、関山林道から融合平展望台付近に向かうコースも、ある程度歩けそうなところがある。なるべく市有林の中を利用して地権者等に問題がないように整理できたらと考えている。

なお、関川林道と関山林道をつなげる計画については、現実的な話として、2つの林道を真っ直ぐ繋げられるような地形ではないと考えている。

水道については、高塚山の方は水が出ていて、その近辺の水源になっているが、その水を引いて管理するのは大変である。顕鏡寺から東の方はエリアに入っていないが、顕鏡寺から300～400m行った先にすごく水が出ている。

顕鏡寺もそちらの方向から水を引いているため、実際に水はある。前回の会議での委員からの発言も踏まえ、色々な角度から検討しており、今後はそのあたりも含めて研究していきたいと考えている。

東海自然歩道や関川林道、関山林道を写真で見せていただき、ヒルがとても心配だが、その対策についてはどのように考えているのか。

今のところ、ヒルは石老山までは来ていないが、裾野にある篠原という方向へ下りた先では一部出ている。ヒルの拡大防止のために、市も補助金等を出して地域の方の協力を得て、拡大防止策を積極的に展開し、その範囲も広げてもらっている。

市民の森を開始する平成31年度までは、ヒルが石老山方面に来ないことを念頭に置きながら、地域の方と対策に努めていきたい。現状ではまだ裾野までは来ていないということで、ご理解を頂きたい。

観光協会においてもヒルの予防をしている。

石砂山(いしざれやま)には、ヒルが沢山いる。

石砂山まではヒルが来ている。

今まで通っていないようなところに無理に道をつくと、雨水の通り道になって徐々に洗掘されて、道がひどい状況になっていく。

ヒルなどの危険生物や崩落等の安全については、まずは確認を行い、必要であれば対策をとることになる。

管理棟のトイレの配置について、女子トイレが手前にあるが、一般的に公の施設

では女子トイレが奥の方にあるのではないか。みんなのトイレが中央にあるため、女子の利用を考慮して隣に配置したのかとも考えたが。

コンサルタントの方では、この配置に特別な意味や決まり事があるのか。特にありません。

資料7のトイレの資料で、土壌処理の実例として、丹沢山の塔ヶ岳が挙げられているが、土壌処理の方式は平成26年度までで、平成27年度からは浄化槽方式に替わっている。理由はオーバーコースで、利用人数が多すぎて、土壌処理では処理しきれないということ。大山も浄化槽方式になっている。

大山の山頂等における浄化槽の汚泥の処理について確認したところ、概ね10年に一度ヘリコプターで汲み取って下ろすということだった。

土壌処理方式は、よほど大きいものを造ればいいが、利用人数が多くなるほど処理が難しくなるため、車が入れる場所なら、バキュームカーで対応できるため、浄化槽方式の方が適当かもしれない。

丹沢や大山でのオーバーコースから考えると、こちらは推測範囲内だと思う。

実は、大山は10年で汚泥を出さなければいけないものを、20年経った段階でやろうとしているため、ヘリコプターを何機も飛ばして、大きな騒ぎになっている。定期的にしっかりやっておけば、あまり問題はないと確認している。

浄化槽の場合は、水が必要だと思うが。

水はほとんど要らないようだ。大山の山頂とか塔ヶ岳でも使っている。雨水を使えば、水を持ち上げなくても、循環利用できるタイプがあるようだ。

技術的には、特に問題はないと思う。どの程度の入込を想定するのか、それにはどの方式が適当なのかということを検討していけばよい。

先ほど指摘のあった景観の問題について、石老山からはすごく富士山がきれいに見えるため、景観伐採を試みたが、過去に地権者の協力を得て景観伐採を行った際に、約束を違えて余計な木まで伐ってしまったことが原因で、理解が得られず断念した経緯がある。

パンフレットには富士山しか描かれていないが、大室山とか焼山、裏丹沢の方がずっとよく見えるため、富士山だけでなく、丹沢の山並みも入れた方がよいと思う。

7月に相模湖地区まちづくり会議で、40年ぶりに石老山に登った。大明神展望台などのベンチの板が古くなったので、新しい板に替えるために登ったものだが、顕鏡寺から東海自然歩道に入り、石老山の山頂を経て関川林道の方に下りて行ったが、このコースは周りも見えないし、大変きついため、自分としては、よほどのことがなければ、再び行きたいとは思わない。上手い方法でコースを新しく作ることを考えていく必要があると思う。

また、コースから富士山が見えにくく、頂上が少し見えるだけのため、以前から景観伐採について何度も働き掛けているが、なかなか許可が出ない状況であった。

そのため、融合平や桜道などから相模湖を一望できるような状態をつくらうということで、現在取り組んでいる。あとは山頂のトイレができればということで進めている。関川と関山の作業小屋や管理棟が一番重要だと思う。拠点づくりができれば、随分と活動が広がっていくと思う。

プレジャーフォレストには大きな駐車場があり、温泉もあるので、ここに車を止めて石老山に登り、ここの温泉に入って帰る人もいるようだ。

それと、石老山の巨石は海の岩なのか。

あれは、相当幅広く2～3kmの幅で、ずっと大月の方まで続いている層で、昔は海の底にあったもの。

このように楽しそうな話が沢山あり、まだまだコマーシャルできるものは多いと思う。反面、こういう所に子どもを連れてくる場合には、相当安全性が求められるし、近くまでバスが来られないと、引率者が大変になる。それが出来るような道があればいいが、ない場合でも、安全な道があれば、多少歩きにくくても、そちらを行くと思う。

プレジャーフォレストとは既に接触しているのか。連携の可能性はどうか。

先日、プレジャーフォレストに伺い、駐車場の利用について尋ねたところ、お互い協力し合って連携していきたいということであった。当面は、プレジャーフォレストの駐車場利用を考えていければと思っている。

プレジャーフォレストでは、温泉に入ったら、駐車場料金は全額返してくれる。

プレジャーフォレストによると、今も石老山に登る人は、プレジャーフォレストの駐車場に止めて、帰りに温泉に入るといったパターンが多いとのことで、全面的な連携もあり得ると考えている。

道がわからず、手前の食堂で聞いたところ、親切に外まで出て来てくれて、「あそこの杉の木がなくなったところが顕鏡寺だ」とか、色々なことを教えてくれた。

今の話のように、ルートに関しては特別なリーフレットをつくり、遠くの眺めがいいとか、この地に伝わる謂われやストーリー、見ることのできる植物や動物などに関する情報を載せた方がいいと思う。

ただ歩かせるだけではなく、魅力を顕在化させる作業を行い、全体像のパンフレットと同時に、ルート別の資料もつくり、できるだけ魅力を伝えられたらよいと思う。

顕鏡寺の参道に入った所に、相模湖地区まちづくり会議が設置した、石老山で見ることのできる花について説明した看板がある。顕鏡寺の場合は病院の方から行くと階段になっていて、そこに花などがあるが、それをパンフレットなどに図示するなど、魅力づくりに取り組んでいければと思う。

石老山については、相模湖地区まちづくり会議にも観光専門ガイドというものがあるって、高尾山の登山者を誘導しようとしている。石老山では奇岩だとかあるいは近くで見られる植物などを紹介したり、水辺のルートを相模湖の中に作ろうとした

りしている。高尾山はハイヒールでも登れるような山だが、そこには無くして石老山に行けばあるというものをつくってほしい。石老山が持つ里山的な要素、ハイキングや登山向きの歩道など。難しさはあるが、そういうことを考えながらコース整備にも取り組んでいる。桜道は、昔はあった道を復活させるという形で作って、結構見晴らしがいい。市民の森の中で、新しいルートをつくり、石老山の魅力をさらに高めていければよいと思う。

歩く方の話を中心になっているが、関川・関山の写真からもわかるように市有林はほとんど整備していない状況である。そういう所で森林体験を行うには、経験を積んだNPOや専門家による指導・運営が必要になる。

今は市有林の中に分収林なども入っているので、その辺をどのように調整しているかということで、色々な意見を聞きながら考えていきたいと思っている。

今の話にもあったが、問題はしっかりとした森林体験のプログラムが、経験あるNPOや専門家により提供できるかということ。そして、どこの団体が行えるのか、中心になる団体はどこが適切なのかということを検討していく必要がある。

以前、相模湖の中学1年生を50人程山へ連れて行ったことがある。その時にのこぎりを持たせたら、生徒たちは山の中に住んでいるにもかかわらず、ほとんどの生徒がのこぎりの使い方を知らなかった。それでも使い出したら楽しくてやめない。だからこそ、本当に初めての体験というエリアを作るべきだと思う。

チェーンソーは使用するのか。かなりハイレベルになるが。

山は楽しいこともあるが、怖い面もある。それをしっかり認識しなければならない。私は高校生の時には枝打ちや杉の植林などを行っていた。そうやって親子三代で山を伐って植えていた。しかし、今は伐るだけでもお金がかかる。切ってもいい値が付かないから、木が伐られずに大きくなっている。

今のような話をできるだけ市民の方に伝えていただけるとよい。今のことに関連して、森林体験ゾーンに車の絵が描いてあるが、ここまで車で来るといふことか。

関川林道は、少し手入れをすれば、軽トラックや軽自動車などの作業車なら終点付近まで行くことができる。関山林道については、現状、軽自動車を超える車でも終点までは入れる。ただ、関山林道の終点付近には沢があるため、沢の反対側の平坦地の利用が可能かどうかは、改めて確認が必要。なお、関山林道の終点部分は広がりがあり、自動車の転回も可能で、現状でも2台程度の駐車は可能。

林道を活用するために、無理して整備を進めると、林道の魅力を損なうことも考えられるため、配慮が必要と考える。

歩く方もいるので、一般車両の通行は考えない方向でご理解をいただきたい。

林道は一般車両が入るところではない。

転回場所も確保できているわけではないので、基本的に入れたい方向で話を進めていきたい。

森林体験の場所は、この近辺では頂上か。

頂上ではない。

先ほど水の話が出たが、水が取れる沢は近くにないのか。

沢はあるが、飲める水ではない。先ほども話があったように、実際下の方で水を取られている方がいるので、簡単に使えるという話にはならない。下で取水している人や地権者との調整も必要になる。

作業小屋を作るのに何らかの作業車は入ると思うが、高度処理型浄化槽なら清掃を月に一度は行き、きれいな水にして沢に戻せると思う。

森林体験ゾーンは市有林ということで、木に手を入れても問題はないということか。それから平地は確保したい。関川の方は比較的緩やかだが、関山の方は少し傾斜が急とのこと。比較的平坦な所と緩斜面での作業になるということか。

狭山丘陵の方で都立公園を管理しているNPO法人アースに聞いたが、そこでは指定管理で森林保全の啓発を住民の方たちと連携して行っている。聞いた話では、ゾーニングする時にその土地が持っているポテンシャルを活かす工夫をしているとのこと、ここで言えば、ただ漠然と市民を受け入れるのではなく、対象を小学生なら小学生、または経験の多少など、もう少し具体的かつ明確な利用者の想定を行った方がいいのではないかと考えている。事務局として、この場所はこういうように使えるのではという想定は行っているのか。

最終的には市民の森で活動する様々な方がどのように考えているかを把握した上で、将来展望を持ちながら、段一段階をどうすべきか捉えていく必要がある。現段階では、ここについてはというようなところまでは絞り切れていない。もう少し意見等を頂き、考えていく必要がある。

今回の検討は、第一段階の計画ということだが、最終的には小学校から高齢の方も含めた多様な層を受け入れていくとなると、受入れが可能な対象はエリアによって違ってくると思われる。今回は移動型のレクリエーションと森林体験ということだが、少なくとも今回の提案の範囲だと、あまり小さい人は対象にならない。

最終的に市民の森そのものは、多様な人に対応できる活動メニューをエリアごとに提供する形を目指すものと思うが、どういう団体(方)に核になってもらうのかというところが重要で、その団体(方)がどういう対象を得意としているのかによっても違ってくる。実際にここでは受入が難しいという対象層もいる。まずは、最初の段階なので、比較的経験を積んでいる人々が対象層となるのではないかと。いきなり素人の方に体験していただく作業は少し難しい。相模湖周辺には色々な森林の活動をされている方(団体)があるので、そういう方(団体)に入ってもらい、教えていただくような手順をとった方がよいと思う。

エリアの中の作業場等は整備しますが、山の中に手を入れて整備してしまうのではないので、まずは担い手を先に想定しながら、どんな方を対象に、どんなことが

できるのかということを開始までに調整しながら進めていきたいと考えている。

作業小屋と簡単に言われているが、現場へ行くと本当にここに作業小屋ができるのかなというような雰囲気を感じる。現場が平坦であるかどうかというレベルでの提案であり、今後、しっかり整理していく必要があると思う。

気になるのは、まだ書きにくいということはあるにせよ、今回の資料全体に言えることだが、車の動線がはっきり書かれていないこと。市民の方であればある程度わかるかもしれないが、まずは、どこまで車でアプローチできるのか、そこからどこをどの位歩いていくのか、県道や国道なども含め、その説明を入れてもらいたい。

先日、石老山に登った際、相模湖病院の駐車場に止めようと思ったが、車で一杯だった。空いている所に止めようと思ったら、崖だったので結局止められなかった。

相模湖病院の所は一部を除き、病院の利用者の駐車場である。そこから随分上がるが、顕鏡寺まで行けば駐車できる場所はある。しかし、そこは駐車場ではないため、パーキングと表記するわけにはいかない。

顕鏡寺まで行き、顕鏡寺の人に話をして、了解の上で止めさせていただいた。

そこは公に駐車場とは書けない。

顕鏡寺までの道路も狭く、周りの住人にも沢山の車を誘導したら迷惑だと思った。相模湖病院の付近もあまり車を止められる場所はない。

石老山に何回も行っている人がいるそうだが、登山の標準時間や、一定区間の距離などが示してあると、次に行ったときに前回と比較できるなどの楽しみがある。どんなことをすれば楽しみにつながるのかを考えていく必要がある。

わかりました。まちづくり会議等でも石老山に関して色々なパンフレットや案内板をつくられている。その中には今言われた多少興味をそそるようなことも書かれているものがある。今回お示ししているパンフレットは叩き台のため、皆さんからいろいろ意見をいただきながらつくっていきたいと考えている。

石老山に登って、案内板にこっちへ行けば見えるところがあると書いてあるが、その後、どうやって帰ってくるのかとか、もう少し行けば石老山の頂上に展望台があると書いてあるが、その後、行った道を戻ってくるだけなのかなどとったりした。案内の内容が、その先のイメージにつながらないと感じた。

もう少しわかるような案内をすべきということについては、東海自然歩道自体の看板はあるが、石老山だけを考えると案内できるようなものが必要になってくる。

今の話は、パンフレットと林道など現地における掲示に関するもの。パンフレットは全体像の話とルート別の二段階での話がある。現地の掲示に関しては、デザインの統一やルートごとの色の設定など、また、地図については、表示ポイントの間隔や方向指示の表示方法などが考えられる。その辺りの掲示のプランニングをしていただいた方がいいと思う。

そうすると、相模湖地区まちづくり会議との連携も必要になる。

東海自然歩道を管理している県との調整も必要になってくる。色々絡み合うため、調整を行っていききたい。

実際に山を歩いていると色々な道標がある。例えば、関東ふれあいの道であれば関東ふれあいの道の道標があって、東海自然歩道には東海自然歩道と書かれてある。今度市民の森の道標をつくるとなれば、山を歩く人たちは混乱する。県や関係者などと調整し、一つにまとめられるとありがたい。

一貫したもので統一した方がいい。

県とも調整していききたい。

管理棟の平面図は、左右対称で美しいが、バルコニーが上と下にそれぞれある。せっかく作るのであれば、例えば上のバルコニーを無くして、中の多目的スペースを広げるとか、将来絶対に必要となる収納スペースとして使う方が有効かと思う。バルコニーは北側のみで十分で、使い勝手から見ると管理棟に来た人の休憩や、多目的なスペースとして使った方が有効ではないか。

事務室・倉庫側にはバルコニーは不要である。

上のバルコニーをつぶして、床面積を有効に使った方がよい。

検討したい。

管理棟の位置は、まだイメージの段階ですね。

管理棟に植栽を行う場合、桜などは冬に根が凍ってしまうので、付きにくい。

この辺りは湿気が多いということですね。

あの辺りは井戸を掘れば水が出る。

花木に関しても適切な検討をした方がよい。案を具体的に固めるためにもソフト面での多少の進展がないと難しくなるので進めていただきたい。

地権者との調整もしていかななくてはいけない。

詳細な管理棟などの位置に関しては、もう少し詰める必要があるが、土地利用に関しては大きな異論はないようなので、これで概ね了承を得たということで進めてもらいたい。

## ( 2 ) その他

次回の日程について、事務局から11月中旬を提案し調整した結果、11月17日(木)13:30~で予定することとなった。(予備日は11月24日)

以 上

## 相模原市市民の森基本計画検討委員会名簿

< 委 員 >

( 委員長： 、副委員長： )

区 分	氏 名	所 属 団 体 等	出 欠
学識経験者	下村 彰男	東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授	出席
自治会連合会	竹田 幹夫	相模原市自治会連合会 監事	出席
相模湖地区 まちづくり会議	穴吹 正男	相模湖地区まちづくり会議 理事	出席
森林組合	坂本 重光 ○	津久井郡森林組合 代表理事専務	出席
観光協会	永井 宏一	一般社団法人相模原市観光協会 副代表理事	出席
まち・みどり 公社	諏訪 秀男	公益財団法人相模原市まち・みどり公社 事務局長	出席
公募委員	伊倉 太輝	市内在住	出席
	高橋 陽子	市内在住	出席

< オブザーバー >

氏 名	所 属 団 体 等	出 欠
石井 洋三	神奈川県県央地域県政総合センター 水源の森林部長	出席
大矢 雅之	神奈川県県央地域県政総合センター 農政部 森林保全課長	出席
厚沢 明宏	神奈川県自然環境保全センター 研究企画部 自然再生企画課長	出席

< 事務局 >

氏 名	所 属 団 体 等	出 欠
若林 徹	相模原市 環境経済局 経済部 津久井地域経済課 課長	出席
黄木 正彦	相模原市 環境経済局 経済部 津久井地域経済課 総括副主幹	出席
榎本 晴男	相模原市 環境経済局 経済部 津久井地域経済課 主査	出席
横尾 昌司	相模原市 環境経済局 経済部 津久井地域経済課 主査	出席

< 相模原市市民の森基本計画策定業務委託受託者 >

氏 名	所 属 団 体 等	出 欠
川原 伸朗	株式会社オリエンタルコンサルタンツ 担当主監	出席
山川 仙和	株式会社オリエンタルコンサルタンツ	出席
荻野 太一	株式会社オリエンタルコンサルタンツ 技師	出席
青木 秀史	株式会社オリエンタルコンサルタンツ 技師	出席